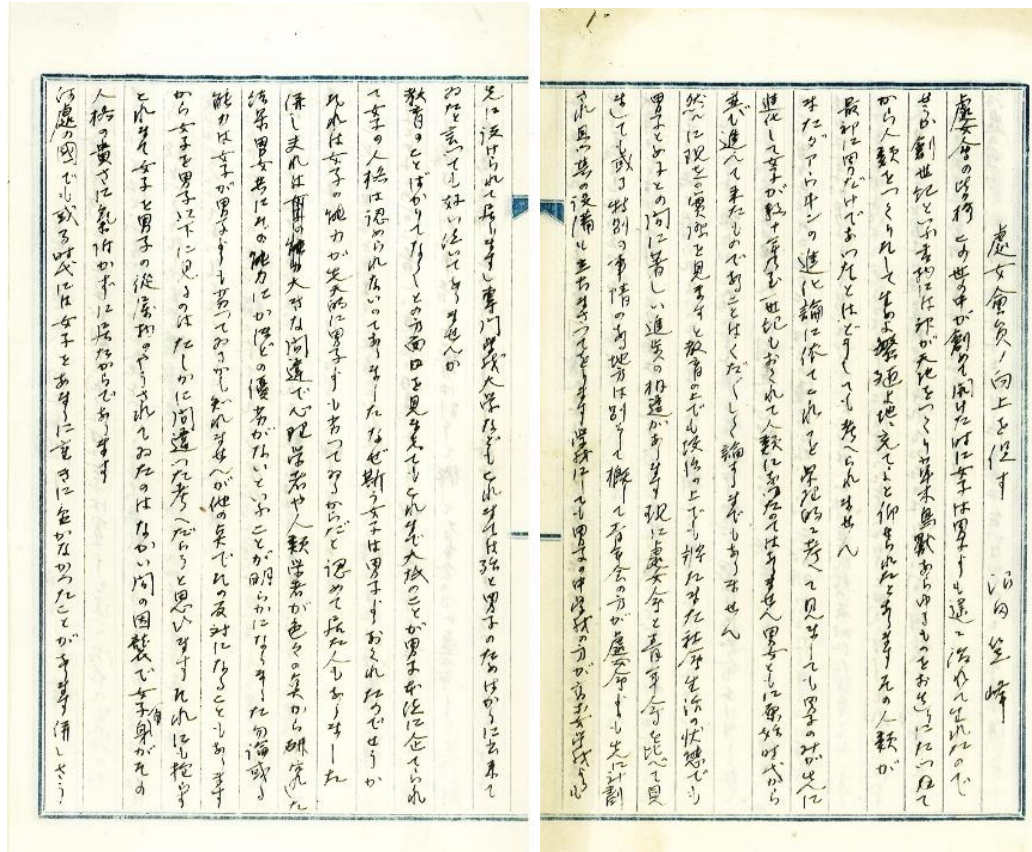


20 女性地位向上を促す挨拶草稿

年不詳

少女雑誌「少女世界」主筆の沼田望峰が女性の地位向上を若い女性たちに促したあいさつ文。内容としては、教育により男子と変わらぬ能力を自覚した女子が奮起し、男女が協力して本当の文化を進めるべきと述べています。処女会は県内では大正10年前後に各町村で結成された女子青年の社会教育組織で、群馬県史によると、13年には会員総数3万7554人に達したとされています。

大胡町茂木第二区有文書「処女会員向上を促す」(P830|776)



処女会員ノ向上を促す

沼田望峰

処女会員の皆様、この世の中が創めて開けた時に女子は男子よりも遙かに後れて生まれたのでせうか。創世記といふ書物には神が天地をつくり草木鳥獸あらゆるものをお造りになってから人類をつくり、そして生めよ繁殖よ地ニ充てよと仰せられたとあります。その人類が最初に男だけであつたとはどうしても考へられません。

またダアウソンの進化論に依てこれを学理的に考へて見ましても男子のみが先に進化して、女子が数十年乃至一世紀もおくれて人類になつたのではありません。男女ともに原始時代から並び進んで来たものであることはくどくど論するまでもありません。

然ルに現在の実際を見ますと、教育の上でも政治の上でも将たまた社会生活の状態でも、男子と女子の間に著しい進歩の相違があります。現に処女会と青年会を比べて見

ましても、或る特別の事情のある地域は別として、概して青年会の方が処女会よりも先に計画され、且つ其の設備も立ちなすつてをります。学校にしても男子の中学校の方が高等女学校よりも先に設けられて居りますし、専門学校・大学などもこれまでは殆ど男子のためばかりに出来てゐたと言つても好い位であります。

教育のことばかりでなく、どの方面を見ましても、これまで大抵のことが男子本位に企てられて女子の人格は認められないのであります。なぜ斯う女子は男子よりおくれたのでせうか。それは女子の能力が先天的に男子よりも劣つてゐるからだと思つて居た人もありました。併しそれは大きな間違で、心理学者や人類学者が色々の点から研究した

結果、男女共にその能力にかほどの優劣がないといふことが明らかになりました。勿論或る能力は女子が男子よりも劣つてゐるかも知れませんが、他の点でその反対になることもあります。これまで女子を男子の従属物のやうされてゐたのはながい間の因習で、女子自身がその人格の貴さに氣附かず居たからであります。

何処の国でも、或る時代には女子をあまりに重きに置かなかつたことがあります。併しそ

いふ時代は決して文化は進んで居りません。戦争のために女子の力が表面的に認められなかつたり、或は国民の道義的觀念が衰へて、男子は女子を玩弄物のやうに取扱つたりしたこともありますが、そんな時代・そんな国家決して永続して居りません。ほんとうの文化を発達させるには、どうしても女性がその建設に加はらなければならないのであります。

男子ばかりによつて立派な文化がつくれないといふことは、道理の上からも歴史の上からも明らかに証拠立てられてをります。然るにこれまでそのことを知らずにゐたのは畢竟教育が十分に行きわたらなかつたからであります。男子と同等とまでは行かなくてもとにかく自分からその使命を顧み得るだけの教育を受けた女子は、もはやこれまでのやうにちつと踏み付られては居られない筈であります。

処女会の皆様、皆様はすでに相當の教育を受けて、学問の上でも日常生活の上でも男子と並び進まうと思へば、決してその能力が劣つてゐないといふことを自覚されたらうと思ひます。即ち女子だからと言つて無教育のままに打ち棄てておかるべきではない。

又、男子の持つてゐる權利が女子に与へられないのも不合理であるといふことに気がおつきになつたでせう。そこで皆様は自ら深く考へなければならぬのです。元より力の足りないものなら仕方がありませんけれども、一生懸命に努力努めさへすれば、男でも女でもその個性に応じて行ける所まで行けるといふことが解ればもはやぐずぐずして居る時ではありません。その途上に横たはつて居るあらゆる困難や障害を押しのけて、各自の向上進歩をはからなければなりません。といつても私は今後の女子が男子と競争することを望むものではありません。競争どころではなく、むしろ男女相携へて共に力を協せて進むことを切望するのであります。

これまでの様に男子ばかりが先に進んで女子が十数年もおくれであつては、共に力を協せることが出来ません。それでは文化が片輪になつてしまふではありませんか。ほんとうの文化は家庭生活でも社会事業でも、男女の協力によつて造らなければならないといふことを私は堅く信じて居りますために、皆様に一大奮發を促してやまないのであります。

又男子の持つてゐる權利が女子に与へられないのも不合理であるといふことに気がおつきになつたでせう。そこで皆様は自ら深く考へなければならぬのです。元より力の足りないものなら仕方がありませんけれども、一生懸命に努力努めさへすれば、男でも女でもその個性に応じて行ける所まで行けるといふことが解ればもはやぐずぐずして居る時ではありません。その途上に横たはつて居るあらゆる困難や障害を押しのけて、各自の向上進歩をはからなければなりません。といつても私は今後の女子が男子と競争することを望むものではありません。競争どころではなく、むしろ男女相携へて共に力を協せて進むことを切望するのであります。

これまでの様に男子ばかりが先に進んで女子が十数年もおくれであつては、共に力を協せることが出来ません。それでは文化が片輪になつてしまふではありませんか。ほんとうの文化は家庭生活でも社会事業でも、男女の協力によつて造らなければならないといふことを私は堅く信じて居りますために、皆様に一大奮發を促してやまないのであります。